

第 7 3 回小金井市市民参加推進会議

日 時 令和 7 年 7 月 9 日（水）午後 6 時 0 0 分～午後 7 時 3 6 分

場 所 小金井市役所本庁舎 3 階第一会議室

出席委員 1 1 人

委員長 繁 田 進 委員

副委員長 金 尾 悠 香 委員

委 員 安 島 裕 大 委員 橋 田 壤 志 委員

百 瀬 海 委員 山 下 佳 穂 委員

山 田 由加里 委員 小早川 良 信 委員

田 中 肇 委員 梅 原 啓太郎 委員

鈴 木 功 委員

欠席委員 1 人

佐 藤 康 博 委員

事務局職員

企画政策課長 廣 田 豊 之

企画政策課係長 前 坂 悟 史

企画政策課主任 兼 堀 義 信

傍 聴 者 1 人

（午後 6 時 0 0 分開会）

◎繁田委員長 皆さん、こんばんは。それでは、第 7 3 回市民参加推進会議を開催したいと思います。

本日は、佐藤委員から欠席の連絡が入っております。定足数につきましては、市民参加条例施行規則第 2 4 条に、半数をもって成立することになっております。1 2 人中 1 1 名の出席をいただいておりますので、本推進会議は成立しているということで御報告申し上げます。

それでは、配付資料について事務局のほうで確認をお願いします。

◎事務局 今回の資料は、本日机上に配付させていただいております。順に確認させていただきたいと思います。まず、本日の次第でございます。続きまして、資料 1 は A 3 のものですが、令和 7 年度市民参加条例対象附属機関等設置状況（令和 7 年 4 月 1 日現在）でございます。資料 2 は A 4 で 2 枚ホチキス留めになっていますが、令和 6 年度市民参加状況調査でござ

います。資料3は今期（第10期）のテーマについてとなっております。資料4は第10期市民参加推進会議工程表というもので、A4・1枚の横向きのものとなっております。あと、後ほど説明いたしますが、ワークショップで使用する資料がA4の2枚ホチキス留めのものと、あとA3の1枚のもの、この2つのものがございます。計6点お配りしている形となっております。

もし不足しているものがございましたら、お申出ください。

以上となります。

◎繁田委員長 質問はございますか。

◎繁田委員長 それでは、本題に入りまして、次第1「市民参加条例運用状況等について」を議題といたします。

事務局からの説明をお願いします。

◎事務局 それでは、市民参加条例運用状況等について説明させていただきます。お手元の資料1を御覧ください。

こちらは、令和7年4月1日現在の附属機関等の状況をまとめたものでございます。市民参加条例の運用状況の確認をするため、現状を委員の皆様へ御報告するものでございます。

附属機関等の総数ですけれども、休会中の会議体も含めて91機関ございます。令和7年4月1日現在、委員となっている方の総数は、こちらのA3表のグラフ、裏面の中ほどの下のほうに合計欄がございますが、委員の総数としましては1,027人、そのうち男性が640人、女性が387人でございます。女性は37.7%ですけれども、その差分の男性が62.3%となっております。条例上、男女の偏りが無いようにとございますけれども、若干、男性のほうが多くなっているという現状がございます。

また、公募委員につきましては、条例上の決まりは委員のうち30%以上ということになってございますが、中には専門的な会議など、公募委員をもともと置かない附属機関等もございます。それらを除いた附属機関等を分母とした実績としましては29.4%となっております。こちらは引き続き、条例の趣旨を満たすように周知を図ってまいりたいと思っております。

委員の年齢、年代別の内訳につきましては、50代が25%と最も多くなりまして、次いで60代が20%、70代が18%と続いてございます。なお、10代から30代につきましては、合わせて4%と、やはり若者が少ないという結果になってございます。

こちらが資料1の御説明となります。

続きまして、資料2を御覧いただければと思います。令和6年度に実施した市民参加状況について御報告させていただきます。

まず、1番のパブリックコメントについてでございます。令和6年度に実施したパブリックコメントは4件でした。

2 番の意向調査とアンケートについてでございます。この意向調査とは、市民参加条例の第 14 条第 1 項に規定されているものでございまして、市民に対して実施するアンケート調査のことでございます。昨年度実施されたものは、こちらの 9 件となっております。

裏面に行きまして、3 番のワークショップについてでございます。昨年実施しましたワークショップ等のイベントは、こちらの 11 件となっております。

2 ページ目に行きまして、4 番の市民説明会についてです。昨年実施した市民説明会は、こちらの 3 件となっております。

5 番のその他についてです。こちらの 3 件でございますが、通年実施している「市民の声」や無作為抽出した市民の方に市政についてのアンケートを取る「市長への手紙」などとなっております。引き続き、市民参加及び議論のしやすい環境づくりに努めてまいりたいと思います。

説明は以上でございます。

◎繁田委員長 ありがとうございます。事務局の説明は終わりました。それでは、今の説明につきまして御意見、御質問がございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。数が多くて、これだけのことをされているという。活動もされております。意外と 20 代、30 代の方が少ないですね。70 代以上の方が結構出されている。

では、意見がないということで、次第 1 の議題は終了とさせていただきたいと思います。

◎繁田委員長 それでは、次第 2 「今期（第 10 期）のテーマについて」ということで、事務局から説明をお願いします。

◎事務局 第 10 期の市民参加推進会議のテーマを決定していくこととなりますけれども、事前にテーマ案の御連絡をいただきました。ありがとうございます。資料 3 「今期（第 10 期）のテーマについて」の 1 番、「今期のテーマに関する委員のアイデア」のとおり、こちらにまとめておりますので、御覧いただければと思っております。

また、4 番のテーマ案につきましては、田中委員からの御提案となりますが、詳細に御検討いただいておりますので、参考資料としてお配りをしてございます。こちらも併せて御覧いただければと思います。

いただいたテーマ案からは、例えば 1 番のところでは、仮説を立てて、それを試して試行錯誤するというものがございます。また、2 番のところでは、検証というキーワードがございまして、4 番のところでは、具体的に市民の意見をすくい上げるといった提案をいただいております。このようなことから、推進会議のほうで何かしらの仮説を立てて、検証を行って、それを提言にするというような流れが望ましいのかと考えております。

続いて、2 番の「第 9 期市民参加推進会議の提言」のところを御覧いただければと思います。前回の推進会議でも御説明いたしましたが、第 9 期では「若者等サイレント層の継続的な市民参加について」という提言をいただきました。改めて提言内容をまとめておりますが、例えば

(2) ①の「サイレント層へのアプローチ」というところの2番目の矢印のところに、WEB申込、WEBアンケートについての記載がございます。こちらにつきましては、現在、LOGOフォームというのを使用しまして、取り組んでいるところです。

そのほかの項目につきましては、市長意見でもありますが、「研究・検討に努めます」というものであり、具体的にはあまり取り組めていないというのが現状としてございます。そのため、第9期の提言も参考にしながら、より具体的な方策について第10期では御検討していただきたいと考えてございます。

以上のことを踏まえすと、テーマにつきましては、こちら3番にもありますが、「市民参加の裾野を拡大させる具体的な方策について」と少し広いテーマとしまして、市民参加を具体的に広げるための実験的な場として、仮説・実施・検証を行いまして、その結果を提言につなげていけるようにしていければと考えてございます。

説明は以上です。

◎繁田委員長 事務局から説明がありましたように、今期のテーマは資料3のとおり「市民参加の裾野を拡大させる具体的な方策について」ということで、前回の9期では提言しましたが、具体的な方策まで行かず、先ほどのLOGOフォームぐらいでした。そのため、今回は具体的に何をするかと、そこまで検討していただきたいと思っておりますが、皆様はいかがでしょうか。意見がございましたらお願いしたいと思えます。

具体的に何をするかを決めていくということによろしいでしょうか。

それでは、今期のテーマが決まりましたが、続いて、全体的なスケジュールについて事務局から説明をお願いします。

◎事務局 全体的なスケジュールについて説明いたしますので、資料4の第10期市民参加推進会議の工程表を御覧いただければと思います。

今期につきましては、計8回を予定しております。既に第1回を4月に実施、開催してまいりまして、今回の第2回ではテーマの決定を行いまして、第3回からは具体的な検討に入りまして、第6回のところまでで検証まで行いたいと思っております。また、第6回からは提言に向けた検討も行いまして、第7回で提言を固めて、最終の第8回で提言に対する市長意見を行いたいと考えております。

今のところ、スケジュールとしては4か月ごとの開催を予定しておりますが、検討状況によっては多少前後いたしますので、その都度、開催日、日程は調整させていただければと思います。

説明は以上でございます。

◎繁田委員長 ありがとうございます。大まかな流れがこんな感じになっております。事務局から説明がありましたが、皆様方の御意見はございますでしょうか。

参考までに9期の流れをここに書かせていただいております。9期は若者討論会を実施しましたが、今回はこのメンバーで決めていきます。グループワークを事務局のほうで考えていただ

いております。

◎梅原委員 このスケジュール表も含めて、質問ですけれども、4回目、5回目のところで「方策の仮説、実施、検証について」がありますが、今回は実際に試してみるということになりますか。参考資料で田中委員から、裏面のほうに実際にやってみる案を挙げていただいていると思うのですが、何か実際に試すものを決めて、それをこの4回目、5回目辺りでやってみるという理解でよろしいでしょうか。

◎事務局 そうですね。そのような形で何かを仮説を立て、本年度5回目のここに書いてありますような様々な形のアンケートをやってみて、どういう結果にまとめるか検証していく形になります。できれば複数ぐらい挙げていただいて、仮説・実施・検証という形のイメージをしております。

◎梅原委員 ありがとうございます。

◎繁田委員長 この市民推進会議ができる範囲のことをやっていくことで御理解いただければと思います。

◎事務局 委員の皆様にお集まりいただいておりますので、市民参加のテーマに関連しまして、簡単なワークショップを行いたいと考えております。流れは担当から説明させていただきます。

◎事務局 本日、テーマのほうが決まりましたので、まずはそれに対してどんなことができるのかというアイデア出しをしていただきたいなと思っております。

資料が2枚ございまして、A3の「ワークシート」と書かれているものと、A4でホチキス留めされているものと併せて御覧いただければと思います。

前は事務局の説明だけで終わってしまったので、本日は皆さんのアイデアなどを引き出しながら、実施したいと考えております。

まず、今回のワークショップのテーマですが、「市民参加が広がるようなアイデア」ということで、本日はアイデア出しが目的です。間違っている構いません。様々な意見を出していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

グラドルール（約束事）だけ決めておきます。1つ目です。この後、意見交換などもしていただきますが、意見に対して否定はしない。このほうがいいのではないかと、否定的なことをやってしまいますと、やっぱりつまらなくなってしまうので、なるべく肯定的な形でやっていただければと思います。

2つ目です。他者の意見を尊重する。1つ目と似たような感じになりますが、今回は意見を出すことが目的ですので、意見を尊重していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

3つ目です。ここからのワークショップについては、自由に御発言していただいているところですので、なるべくコミュニケーションを取っていただくということを重視していただければと思います。

続きまして、1ページ目の裏側のところになります。ワークショップの流れについて簡単に

御説明いたします。ステップは3つございます。まず、ステップ1のところにつきましては、個人ワークを大体10分間行っていただきたいと思います。ステップ2のところにつきましては、2人1組で意見交換を10分していただければと思います。ステップ3のところにつきましては、全体での発表という形で、これも10分間ぐらいで、行っていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

細かいところを説明していきます。まず、ステップ1の個人ワークのところでございます。ワークシートを併せて御覧いただければと思います。左側に「ステップ① 個人ワーク」と記載があり、枠で囲んであります。まずは、テーマ「市民参加が広がるようなアイデア」というところで、アイデアを記入していただければと思います。どのようなことをすれば市民参加が広がるのかというところを考えていただいて、御記入をしていただければと思います。恐らく、10分間の中で1個だけアイデアが浮かぶ人もいれば、いくつもアイデアが浮かぶ方もいらっしゃると思います。

まずは手を動かしてみるというところからやっていただければと思います。

考えていく中で、そのアイデアでどのような課題が解決するのかですとか、どのように工夫していけばうまくいくのかというところも併せて意識して考えていただければと思います。

続きまして、ステップ2のところですが、ここでは2人1組になりまして、自分の考えたアイデアを発表していただきます。お互い発表し、その感想を言い合ったり、質疑をしていただいたりする時間を想定しております。

発表の仕方が分からない方が恐らくいらっしゃると思いますので、このアイデアの発表例を1から4まで挙げてみました。まず、1のところでは自己紹介をしていただければと思います。2番のところで「私のアイデアは〇〇〇です」のように、アイデアを言っていただければと思います。その後、このアイデアのポイントはこのように考えていますですとか、自由に御発言いただければと思います。最後に「以上で終わります。ありがとうございました」で締めくくるといったような形としていただければと思います。

10分間でお二人とも発表いたしますので、相手の発表ができなくなってしまうので、長くて3分程度で収めていただければと思います。

お互いに発表が終わりましたら、質問や感想などを10分間の間に意見交換の時間で使っていただければと思っております。

シートを見ていただければと思いますが、相手がどのようなアイデアだったのかというところをステップ2の意見交換、左側の四角のところにメモを取っていただいて、その感想についてはその右側の四角のところに書いていただければと思います。

このステップ2のところですが、2人1組で行っていただきますので、隣同士になっている方で組を組んでいただければと思います。よろしくお願いいたします。

適宜、事務局のほうでもフォローしますので、何かあればお声がけいただければと思います。

最後、ステップ3のところでは全体の発表ということで、今回11名いらっしゃるの1人1

分程度の発表していただければと思います。

発表の例ですが、ここに1から3で記載はしておりますが、自分のアイデアの内容を発表していただいてもいいですし、意見交換を行っての気づきですとか、相手のこういうところがよかったというような意見でも構いません。そのほか、ワークショップをやった感想や今後の意気込みを簡単に発表していただければと思っております。

1人ずつ発表していく中で、印象に残ったアイデアや感想でも何でも構いませんのでワークシートの最後のところに、記載をしていただければと思います。ここは任意で大丈夫です。

最後、このワークシートは席のほうに置いていただければ、事務局でどんなアイデアがあったのかとかいうのも確認したいと思っております。

簡単ではございましたが、このような形で残りの時間を使ってアイデア出しを行っていきたいと思います。今の段階で疑問があればお願いいたします。

◎安島委員 まず、テーマに関してですが、「市民参加の裾野を拡大させる具体的な方策」ということですが、その「拡大する」というのは、この資料で書かれているところの若年層やサイレント層、特に若年層にアプローチしたいということですか？

◎事務局 前期のテーマのところかと思いますが、もちろん9期まで検討してきた流れがあるので、若者を含むサイレント層へのアプローチでも構いませんし、それ以外のところでアイデアがあったりした場合は、そういった形でもどちらでも大丈夫でございます。

◎安島委員 分かりました。もう1点が、市民参加の裾野を広げる際、どんな市民参加が増えるといいなと思っていच्छるのかをお伺いしたいです。これまでの資料を見ると、公募委員を増やしたいということでしょうか？

◎事務局 前回のところでも議論がありましたが、市民参加は条例で定めているところと、ボランティアも含めて市政に協力していただくような、広い意味の市民参加もあるということであると理解しております。

もちろん、市民参加条例で定めているパブリックコメントや附属機関の委員ですとか、そういうことにつながればということも事務局としてはあります。この市民参加推進会議の中では広いところを考えていただいて、そこにつながるような何か、アイデアを出していただければと思います。

◎安島委員 ありがとうございます。

◎繁田委員長 前回、市長が来られたと思いますが、市長もこの委員を第4期にやっておられて、そのときは具体的な方策が出ましたよね？

◎事務局 そうですね。本日も傍聴の方がいらっしゃいますが、意見・提案シートというのを傍聴の方にお配りしております、傍聴の方も意見が言えるような御提案を第4期のところではいただいております。この市民参加推進会議だけではなくて、ほかの会議体でもなるべくその様なものを導入してくださいと全庁的に御案内しているところでございます。具体的に何かございましたら、こちらのほうも導入がしやすかったりするので、仮説を立てて検証までして

いただけると良いなと思っております。

◎繁田委員長 ありがとうございます。第4期では、たまたま今の市長さんがいらっしゃったからということで、そのような具体的な提案を考えていただけると良いかなと思います。小金井市民、全員に行き渡るようなことでも構いませんし、若者にポイントを絞ってでも構いませんのでよろしくお願いします。

では、個人ワークのほうに入らせていただきますので、現在、6時32分なので、42分ぐらいまで10分間、まず個人ワークをお願いいたします。

(個人ワーク)

◎事務局 個人ワークはここまでで終了にさせていただいて、2人1組での意見交換のほうに入りたいと思います。先ほどの資料を見ながらでも結構ですので、お隣同士の人と発表し合っていただければと思いますので、よろしくお願いします。

(ワークショップ)

◎繁田委員長 活発な議論、ありがとうございました。

では、発表をそちらからお願いいたします。

◎安島委員 私は、市民参加の何が aumentando することが良いかというところで、公募委員が増えるということ、それ以外のボランティアを含む広い関わりが増えることを考えました。それぞれに対してアイデアを考えましたが、まず、公募委員を増やすということにつきましては、そもそも知られていないというところと、知っても何をやっているのか、何ができるのか分からないというところがあると思いました。そのため、まず目に入ってもらえる状況をつくりたいなと思いました。

例えば、JRの中央線の駅であれば、若い人もかなり利用する場所なので、そこにJRと協力して安く広告を出してもらおう。大きなQRを作成し、そこから飛ぶと公募委員という仕事は実にはあり、そんな制度があるというお知らせが届くようにする。そこから自分の興味・関心で、子育てや環境等の様々なテーマがある中で、それぞれの委員から書かれた内容がまとまっている仕掛けをつくることのできないかということを考えました。

2つ目のボランティアを含む広い関わりということにつきましては、学生との関わりがとても重要であると思っています。国分寺市ですと東経大のボランティアの方々が地域にたくさんいらっしゃいます。学生にとって、地域でボランティアをするということは就活に使えることであり、学生のメリットを引き出しながら、大学と連携してボランティアの仕組みをつくっていくことはすごくできそうであると思いました。

◎繁田委員長 ぜひお願いしたいです。ありがとうございました。

続きまして、お願いします。

◎小早川委員 私も何か行政との関わり方で一般的な意味を2つ考えました。まず、行政はすごくお堅いイメージがあり、行政用語が多いことから、市民に対して発信する際に難しい言葉なるべく使わないようにすることです。

2つ目は、既に「市民の声」というものがありますが、掲示板等を活用することが良いと思います。LINE登録し、掲示板に困りごとを書き出すことにより、レスポンスがあれば「役に立った」という、気持ちになれると思います。

他には、オンラインで市民が予算に関わるというアイデアもあると思います。

また、私は社会福祉協議会にて仕事をしていますが、やはり災害をテーマとして人との繋がりを大切にすることが重要だと思います。

◎繁田委員長 ありがとうございます。では、続きをお願いします。

◎百瀬委員 まず、市のSNSをより発信できると良いと思います。例えば、「ここで推進会議をやりました」や「本日は市議会がありました」のようにSNSで発信することが良いと思います。特に若者中心で考えた際に、インスタやXを利用している人が多いので活用すべきであると思いました。

他には、中高生向けの話になりますが、「1日市議会議員体験会」のようなイベントを活用することにより、市議会について関心を中高生のうちから育めるのではないかと思います。

また、「学生時代に力を入れていたことは何ですか」と就活で聞かれることが多いです。そのようなことを「ガクチカ」と言いますが、市民参加はガクチカになると思います。SNSにて、学生に対し「市民参加するとガクチカになる」と発信することで、学生も参加されると思いました。

◎繁田委員長 ありがとうございます。

◎梅原委員 私は本日の資料で出されていた審議会委員さんの年代別の構成を改めて見てみると、30代以下が4%しかいないということで、あまりにも極端だと思います。小金井市も市内の大学をはじめとして、近隣の大学、専門学校、様々な包括連携協定を結んでいますので、そういったところの学生さんに公募委員として参加していただけると、若者の意見も聞けるのではないかなと思います。また、公募委員に限らず、市のイベントやボランティア等のお手伝いをいただけると良いと思いました。

他には、市民参加を含め様々な形で参加していただいた方の意見を発信していただくことにより、非常に距離が縮まるのではないかと思います。

◎繁田委員長 実際に市民参加していただいた方にSNSで発信していただくということですね。ありがとうございます。続きまして、山田さん。

◎山田委員 小金井市役所のホームページを携帯で拝見される方が多いと思います。ただ、ジャンルが分かれており、自分が必要な情報を見るためだけにしか使われていないので、ホームページのトップに「このような活動をしてくれる方を募集します」というような文言を掲載することが良いと思いました。

◎繁田委員長 ありがとうございます。続きまして、田中さん。

◎田中委員 この説明の前に、市民参加とは何だろうと考えたほうがよろしいのではないかと思います。市民参加とは地域の思いを吸い上げて、それを市政に反映させることではないか

と思います。今回は新しい形の方法はないかと考えた時に、講座に参加した方の声を集めると何か生まれてくるのではないかと思います。恐らく各課でイベントや講座を実施した際に、アンケートを取られていると思います。そこまで止まってしまっているのが現状だと思います。私は、図書館と公民館の運営をしています、特に公民館は全てのイベントでアンケートを取っています。参加した市民の意見が集約されていたと思うので、そのような方法を利用することが望ましいと思います。

他には、ゆめたね放送局というラジオの放送局がありますが、市役所でも毎週ゲストを呼んでみるのはいかがでしょうか。

◎繁田委員長 ありがとうございます。

では、続きまして、橋田さん、お願いします。

◎橋田委員 私は、興味を持ってもらう方法として2点考えました。1点目が、現在、市が抱えている問題の中で考えやすいテーマを、小学校や中学校などのできるだけ年齢の若い人たちに考えてもらうことです。若い年代の人に、市がどんな問題を抱えているのかということを知ってもらうということ、考えるということは第一歩目ではないかと思っております。例えば、空き家が市にはこのぐらいあり、何か解決方法がありませんかのような投げかけを行う。恐らく、小学生は遊び場にしたいという意見が出てくると思います。大人がこうやって遊びなさいと押さえつけるより、子供は自由に遊びたいと思うので大人にはなかなか出せないようなアイデアが出てくるのではないかと思います。

2点目は、媒体を広く、SNSやお手紙、投書、アンケート用紙等で広くし、市への要望や気軽なものをランキング形式として発表することです。恐らく、そこに参加しなかった人も、どんなランキングであるのか関心を持つのではないかと思います。

◎繁田委員長 ありがとうございます。鈴木さん、お願いします。

◎鈴木委員 橋田さんの意見でもありましたが、学校でアウトリーチのような発案は重要だと思いました。

また、少し調べてみたのですが、宇都宮は会議を朝5時半からやっているみたいです。恐らく若者は賛同しないと思いますが、8時までに会議が終わることになれば、土曜日や日曜日を有意義に使えると思いました。

◎繁田委員長 ありがとうございます。

では、続きまして、山下委員、お願いします。

◎山下委員 市報に市民の意見を載せる御意見コーナーをつくるのが良いと思いました。自分が出した意見が文字になると、意見を出したかいがあったと感じると思います。また、町内会の活動をもう少し活発にし、若者も参加できるようなイベントがあると良いと思いました。

◎繁田委員長 ありがとうございます。では、金尾さん、お願いします。

◎金尾副委員長 委員になったら意見が吸い上げられるのであれば、様々なところから委員を抽出するべきで、例えば公募や無作抽出の募集枠を細分化したら良いのではと思いました。

また、仮説・検証・提言というサイクルがありますが、時間がかかることもあると思うので検討内容によって、短期、中長期的に検討するなど、この期でやり切れなかったことは次の期に託すことができると良いと思いました。

我々は市民参加にフォーカスしていますが、ほかの附属機関は違うところにフォーカスして市民が入ってきているのだと思います。そのため、市民参加にイニシアチブを取るのは我々のため、各附属機関の委員に市民参加ができているか等の意見をきいて整理をしても良いのではないかと思います。市民参加の状況や問題の洗い出しにできると思います。各課や附属機関で恐らく様々な市民参加をやっているか、やっていないかのマル・バツ表が欲しいと思っていました。そのような統計やデータの整理をこの会議で出来ると良いと思いました。

◎繁田委員長 ありがとうございます。まずは現状の把握ということですね。他に意見がある方はいますか？

◎百瀬委員 例えば、「市役所の庁舎をどうするべきか？」をテーマとした時に、駅や市役所にシールアンケートを設置することが良いと思いました。意見の見える化により、実際に自分が参加したと感じ取ることが出来ると思います。

他には、小学生を対象に地域の課題をテーマにしたボードゲームを授業等で取り入れてもらうことや、まちの課題カフェとして飲み物をサービスする代わりに議論をしてもらうことが出来たら良いと思いました。また、「誰でもスピーチ・アット3分間」という未成年の主張として、未成年に特定の場所で3分間のスピーチをしてもらうのは良いと思います。

◎繁田委員長 小金井市には意見聴取が可能な窓口はありますか？

◎事務局 「市民の声」というものは制度としてありますが、知られていない課題もあると思うので、意見を言える場や方法を考えるのは良いと思います。

◎繁田委員長 百瀬さん、若者には恐らくSNSで良いと思いますが、高齢者の方にはどのように周知いたしますか？

◎百瀬委員 私はSNS以外思いつきませんでした。フェイスブックを利用するのはいかがでしょうか。

◎小早川委員 先日、社会福祉協議会にて住民懇談会を実施いたしました。参加者は高齢者が多かったのですが、紙媒体の需要はあるので紙媒体での発信はやめないでいただきたいです。

◎繁田委員長 それは永遠のテーマですよ。SNSは簡単で安易ですが、高齢者の方には難しいと思います。やはり、手紙とSNSのハイブリッドでやるべきですかね。他に、何かいい意見はございませんか。

◎田中委員 SNSの話が出ましたが、ツイッターやXにスペースという機能があります。どなたでもテーマを立てて話ができるというものです。このスペースを立てることにより、関心のある方は目に止まって、そこで話合いが生まれます。そのような機能を市役所でも活用するのはどうでしょうか。

◎梅原委員 小金井市でも、SNSの活用をしているところではありますが、事務局のほうで現在の状況をご紹介いただけると良いかなと思います。

◎安島委員 Tシャツに大きなQRを貼るのはいかがでしょうか。

◎繁田委員長 歩く広告ですか？

◎安島委員 そうです。何か目につく仕組みが良いと思いました。

◎繁田委員長 それは面白いですね。他はいかがでしょうか。

では、次回はSNSでどのように広めていくかということ、大学生のボランティアを利用し、大学との連携を取り確実に若者の意見を吸い上げていくことですね。

では、事務局のほうでまとめていただき、次回はこの中から絞っていくという形にさせていただきますと思います。ありがとうございました。

それでは、本日最後の議題ですが、次第3その他について、事務局から説明をお願いします。

◎事務局 次回の会議ですが、10月頃の開催を検討しております。事前に委員の皆様にはメールにてお伺いしておりますが、未定という回答の方もかなり多かったため、改めて候補日を挙げて皆様にメールでお送りいたしますので、御回答をお願いできればと思っております。

◎繁田委員長 それでは、また別途、事務局から調整があるということでございますので、皆さん、よろしくお願いいたします。

そのほかに何かある方はいらっしゃいますでしょうか。

それでは、これをもちまして第73回市民参加推進会議を終わりたいと思います。どうも皆さん、ありがとうございました。

(午後7時36分閉会)